盡かたえの包居並や岩ねこし
知れすある世先られしき子の日哉
鮭をとの日のさし合せなし三ヶ日
若水や初とりの迎へすや縄待躰
襟着すや先也て見るやよ川日の出

東京 風羽
羽林 峰凪
岩代 壮山
近江 九峰
横濱 其獨

漏降の包寿する脈いし雀堂
松かりもおのからら上下野梅られ
登いきり制像む扇やや徐初

東京 芳律
芳知
芳哉

古箸の白さより飯いやるたるか
一日や曲客へ折たる膝のちり
おさめりや眺て見られ紫夕下星
年礼や勝手も膳もさうあうち

上総 七十一歳 棄古
八十歳 其革
梅白
栽琴

漏降や濡てある見たらり おもしろく
一日や外へも檀身庵のちらり
よきし日新さすや恵方の小窓より
一日や心のとけき沸く得ひ
ふおとま年中猶方稲穂相手こう松
再からおかくれすに茶るちら芸哉
よん年にうられ藤や初うらす
香の香中得よ得をまかゝ梅の花
先立つつりまぶりきしや福寿草
若ちや後手に柳も山に新
晴あるうちる陰なし去年今年
二の声見松のくまりちら稲
一日も目出ぬのつぼみこ筆
くもりなき心う浅さん流継
ひともり皆開く戸や初うらす
世の光ちらり洛もりしちら稲
ひもと遊すまの幸かや小松身
年立や神代お昔初なはまき
蓬莱の声や春気く人の中
拝むまし松の薫りや初日の出
嘶すなる笑ひあつめなり福寿草
よきみちやり家も恵ひ年梅一本
草の戸も捻り禮者の早う来れ

素白 一樹 素月 旨春 文遊 濱水 斎圓 桃林 保水 芳月 斎山 桂交 文信 壮光 秀哉 茱山 文衣 正是 一菓 緑園 漁遊 玉蕉 歴山

明治十八年一月

槐彩老人書